

## ●郷里の誇り「須恵器の復活を」

この夏、ハーベストの丘にある連房式登り窯の火入れに立ち合わせて頂く貴重な機会を得ました。古墳時代に大陸からこの地にもたらされた技術は、焼き物革命を起こし、口ケツにも用いられるセラミックスの技術にも通じています。私は郷土の誇りである須恵器を復活させ（その為にはハーベストの丘などに登り窯の整備が必要です）、子どもたちがビッグバンなどで、シニアボランティアさんのサポートを受けながら、陶芸を通じてものづくりの楽しさに親しんでいただける環境整備を進めていきます。



左:須恵器 右:現代須恵器

## ●南区内全校区への「まちの保健室」整備を視野に、まずはビッグバン内に「子育て支援保健室」の整備を

2025年には高齢化率が5割を超える泉北では、大学医学部及び大学病院の建設工事が本格化しています。私は、地域、行政、大学、病院などが連携した、「健康長寿のまちづくり」を提唱し、ソフト重視の、ポピュレーションアプローチによる健康づくり政策に取り組む様、求め続けています。その鍵として、将来的には、全小学校区へ「妊娠期から人生の最後を自宅で迎えようとする方々を対象とする『まちの保健室』の整備を」目指しています。

まずはそれに先立ち、市立児童館「ビッグバン」内に子育て相談拠点（私のイメージは泉北版『ネウボラ「フィンランド語でアドバイスの場所」保健室』）の整備を求めています。これを視野に、ビッグバンが誰でも立ち寄れる場所とする為、府立時代には実現できなかつた「無料エリア」も1階に実現しました。まずは、ここに区の保健師が常駐し、産前・産後・子育て期の切れ目のない支援を行う地域拠点づくりを進めていきます。また、子どもたちの様々な相談にも乗れる体制構築をめざします。ビッグバンのコンセプトである「宇宙」をテーマにした展示にも更に力を入れ、堺っ子の夢を応援していきます。



## ●安心して移動できる権利を守り続けるために

昨年度は、二度に渡り、お出かけ応援制度の改悪と闘い、これを退けさせたものの、初当選以来取り組み続けてきた泉北高速鉄道の割高感の解消に向けた取り組みの一つであった「泉北高速鉄道等通学定期補助制度」は、永藤市長の判断で廃止となり、忸怩たる思いが残っています。私は泉北高速鉄道のみならず、市内バス路線網、阪堺線の活性化など、関係するあらゆるステークホルダーが一堂に会し、お互いの主張をぶつけあいながら、乗客である住民にとって利便性の高い公共交通を維持、向上させていくのかを議論するため「堺市地域公共交通会議（法定協議会）」の設置を求め、本年度中に立ち上げ、令和6年度中に「堺市地域公共交通計画」を策定することを確認させました。公共交通利用者である市民のみなさまのご意見をしっかり届けていく決意です。また、行政任せにせず、先に計画を策定した滋賀県東近江市をフィールドに「東近江市地域公共交通計画」の検証・提言にも携わっています。地に足をつけ、ビシッと発言していきます。



## ●求められているのは市民に寄り添う市政

コロナ禍を受け、政府からコロナ対応臨時交付金が交付されています。交付金は、しんどい思いをしている市民生活を支えるべきもの（2学期の小学校給食の無償化等。私からは、生活支援にとどまらず、黙食を強いられている児童に人気のメニュー「例 揚げパン」を増やす努力を求めています）です。

これを堺市は流用し、市役所高層館のZEB（省エネ）化の検討に約1200万円もの交付金を充てていたことが明らかになり、私は「使途をはきちがえている」と厳しく追及しました。

近年、堺市では、南老人福祉センターの利用者への配慮を欠いた対応、梅・美木多駅前ロータリーの再整備に伴い、ご不便をおかけする駐輪場管理に従事されている方々の声を黙殺するなど、市民に対する寄り添いを著しく欠いた事例が多々見受けられます。市民の声を蔑ろにするような事態が生じた際には、二元代表性の一翼を担う議員として、毅然と声を上げ続けていきます。



堺市監査委員に就任

編集 小堀セイジ事務所

発行 〒590-0117 堀市南区高倉台2丁19-17

TEL 072-292-8619

FAX 072-292-8679

mail koboriseijioffice@gmail.com

https://kobori.cdp-osaka.jp/

Twitter @seijikobori

公式 HP



Twitter



「聞く・伝える」は議員の基本です。  
ぜひ、みなさまのお声をおきかせください。



堺市議会議員  
小堀セイジ 市政報告  
セイジ レビュー

SEIJI REVIEW Vol.81

堺市議会議員

# 小堀セイジ

大阪公立大学 都市経営研究科附属都市経営研究センター 研究員

～プロフィール～

■堺市立高倉台小 ■堺市立三原台中 ■大阪市立扇町高校 ■オーストラリア国立ディーキン大学  
■大阪市立大学大学院（修士）■大阪公立大学（博士後期課程在学中）

●堺市監査委員 ●文教委員会委員 ●公共事業等関係費適正化調査特別委員会委員

●堺市住宅まちづくり審議会副会長 ●堺市同和行政協議会委員 ●堺市地域包括ケアシステム審議会委員

## 大阪・堺の成長をIR・カジノに託すな ～計画不認定の声を国会に届けよう～

大阪にカジノの開設を許せば、最長で65年にも渡り、外資系企業が日本人のお金を食い物に、治外法権的に居座り続けるという、ある意味「65年に渡り自治の凍結を招く」との強い危機感のもと、私も南区の受任者の1人となり、カジノを含むIR（統合型リゾート）の大阪への誘致をめぐり、その「是非を問う住民投票」の実施を目指し、署名活動を行い、去る7月21日、受任者の一人として大阪府に対し、19万筆を超える有効な署名を提出し、吉村知事に「住民投票条例」の制定を求める直接請求を行いました。

地方自治法に基づき、吉村知事は意見を付け、住民投票条例案を府議会に提出しなければならず、その判断は府議会に委ねられることになります。しかし、吉村知事は、カジノ誘致の賛否を問う住民投票の署名が、速報値で府内有権者数の50分の1（法定数 約14万6000筆）を上回った6月初め頃から「住民投票をする必要はない」「反対派の声に耳を傾け、依存症対策に取り組む」などと発言し、多数を占める府議会にプレッシャーをかけ続け、カジノ誘致の是非を問う住民投票を求める条例案は7月29日の臨時府議会で、即日否決されました。

大阪市の廃止分割を二度に渡り企て、二度に渡る住民投票を実施し、議会での多数を背景に「民意」を声高に叫び、都合が悪くなると、民意を黙殺する知事のダブルスタンダードを私は容認できません。

議員として、引き続き、国会に対し、大阪カジノ計画を認定させないよう強く働きかけていく決意です。共にあきらめずにがんばりましょう。

## ●小堀セイジ市政報告会のお知らせ（参加費無料）



日 時：11月23日(祝)午後2時から午後4時

場 所：梅文化会館第1講座室

ゲスト：日本城タクシー 坂本篤紀社長

「堺に新自由主義はいらん！」



# 議員活動のご報告

今年度、堺市議会文教委員会委員に就任いたしました。

初当選の年に「子ども青少年健全育成調査特別委員会」に所属して以来、「次世代育成支援調査特別委員会」の副委員長、「文教委員会」委員長、「育ちと学び応援施策調査特別委員会」初代委員長などを歴任してまいりました。在職15年を迎えた今年、文教委員会の委員になりましたのも、天の配剤と受け止め、堺っ子の育ちと学びの応援団長の心づもりで、毎議会、質疑、そして市民のみなさんから出された陳情の審査を精力的に行ってています。

地方自治は「民主主義の学校」と呼ばれています。民主主義を尊ぶには、プロセスが最も大事です。

9月27日、故安倍元総理の国葬儀が執り行われました。それに先立ち、堺市は9月22日付で、市役所で半旗の掲揚を決定し、区役所などに協力を求める文書を通知しました。市が意思決定を行った22日は、私が文教委員会で質疑に立つ日でした。教育行政を所管する委員会の委員として、市長出席の下、学校園に対し、弔意を強要する事のない様、強く公の場で求めました。

**堺市教育委員会は保身ではなく、児童生徒を守る気概を持て**

5月の連休中、区役所に堺市の女子児童を殺害するという脅迫メールが届き、この事実は、連休明けの6日金曜日午前9時40分には教育委員会に届けられました。警察等捜査機関に連絡の後、本来であれば速やかに対策を判断し、学校園、区役所などを通じ、見守り活動等を行ってくださっている自治連合会さんなどに連絡の上、緊急の見守り、保護者などへのお迎えの依頼などを行うべきところですが、教育委員会内では「小田原評定」が続き、判断が大幅に遅れました。私自身、子どもの学校からの「お迎えを依頼するメール」を受け取り、初めて事の次第を知ったのが午前2時前でした。我が家の場合、幸いにもお迎えを依頼できる両親が健在ですが、いずれのご家庭でも急な対応が可能なわけではありません。長年、危機意識の乏しさに呆れ果てる対応が極めて多い教育委員会でしたが、今回は議会で厳しく叱責し、甘い見通しに基づき、判断が遅い市教委の姿勢を抜本的に改善する様求めました。

**確かな育ちと学びが得られる学校づくりを目指して**

多くの子どもたちが集まる学級、学年、そして学校では、大小様々な出来事が日々起こっています。子ども同士の些細な行き違い（人間関係のもつれ）が、時に取り返しのつかない大きな事件に発展することもあり、一人ひとりの児童生徒が発する小さなサインを見逃さない事が重要です。しかし、サインを見逃し、結果的に行き違いなどになった場合、いち早く、「学級」で、そこで難しければ「学年」で、それでも対処困難な場合には「学校」全体で解決にあたらなければなりません。しかし、残念ながら「チーム学校」が十分機能しきれていない学校が存在するのが現状です。こうした状況を踏まえ、この15年で、私は全中学校への生徒指導教諭の専任配置や小学校3年生までの35人以下学級、4年生から6年生までの38人以下学級などを実現してきました。今は、小学校への生徒指導教諭の専任配置を拡充させつつ、その効果検証を行いながら、全校配置をめざしています。

残念ながら「チーム学校」では対処できないような事案については、教育委員会の生徒指導課がその対応を一手に引き受けており、その時間外労働は驚くべき実態となっています。私は、事の本質を見極めた上で、市教育委員会が各学校現場をしっかりとサポートする体制を構築し、更なる少人数学級（中学校においても）の実現を働きかけています。決して簡単な道のりではありませんが、議員として教育現場を見続け、発言し、少しずつ成果をあげてきました。子どもたちの学びと育ちを更に力強く応援していきます。



在職15年表彰



拘束帯を付けた通学バスに乗車



## 生き抜く力を身につけられるように

「全国学力・学習状況調査」などの結果を分析してみると、堺では、基礎的な学習につまずき、その結果、十分な学習内容の定着が見られない割合が高い傾向にあることがわかっています。堺市教育委員会は、授業や家庭学習で「ICT」、即ち文部科学省が旗を振る「GIGAスクール構想」による1人1台端末（パソコン）で補完できることで答弁していますが、これには、眉唾です。私は、ICTを真っ向から否定するつもりはありませんが、勉強を教えてくれたり、声かけをしてくれたり、サポートをしてくれる人の代わりが、パソコンに務まるとは到底思えません。むしろ日頃、通学時の見守り活動などでお世話になっている地域の方々のお力を借りし（当然、薄謝はお支払いすべきです）、基礎学力の定着を図るべきではと考えています。実際、三重県のある小学校では、地域の高齢者が「ほめほめ隊」として、九九を覚えた児童や、難しい漢字を覚えられた子どもを「ほめる」活動があります。ICT頼みでなく、伴走型（理想はクラス全員が授業についていることですが）の支援のあり方を検討するよう強く求めています。まずはのびのびルームなどの放課後活動の中で、教員志望などの学生が（それなりの時給で）宿題などをきちんと教えてあげられる仕組みづくりを早急に構築する様求めています。

## 図書館づくりを通じて、堺市が苦手な「文化×まちづくり」を克服しよう

堺市立中央図書館は老朽化が著しいことから、中央図書館に求められる機能などについての議論が重ねられ、必要な機能と役割についての取りまとめが既に終わっています。築51年を越え、また立地する大仙公園が世界遺産大仙陵に隣接することから、建て替え等についても大きな制約を受けるにも関わらず、議論された整備候補地は、複数エリアが挙げられ、悪く言えば、「建て替えができるのであればどこでもいい」とも受け取れる中身です。まちづくりの観点から、再開発を促進するため、再開発ビルに図書館を入れる手法を他市で多く見てきました。いずれの図書館も「健康」や「子ども」などをテーマにした素晴らしい図書館でしたが、あくまでも再開発が主で文化行政である「図書館」が従でした。私は、堺市立図書館の役割を考えた時、その中央図書館のテーマは、中世から続く「自治」ではないかと考えます。それを柱に、立地を検討するのも一つの手法ではと考えますが、みなさんは如何お考えでしょうか？チンチン電車線路沿いの、旧環濠都市内に中世の街並みを活かした図書館はいかがでしょうか？都市計画のツールと位置付けるのではなく、図書館からまちづくりを仕掛けていく、そんな堺の文化を尊んだ、自治のまちらしい提案をみなさんとご議論させて頂きながら、提言していきます。また、学校図書館の機能強化は喫緊の課題です。学校司書の拡充、学校教育と図書館の連携を深化させることで、簡単にスマホなどで情報にアクセスできる時代だからこそ、情報の真贋（フェイクニュースに惑わされない）が見極められる堺っ子を育んでいきます。

## あらゆる子どもの育ちと学びの保障を

障がいのある子どもたちが学ぶ支援学校では、少子化であるにも関わらず、児童・生徒数が増え続けています。その背景には、子どもの特性にあった教育を受けさせたいというニーズが高まっていると言われています。堺では、2009年に百舌鳥支援学校の過密化を理由に、上神谷支援学校を分離新設したものの、その後も両校の児童生徒数は増え続けています。また、百舌鳥支援学校では施設の老朽化と狭隘化が長年課題となり、その対策として、私が議会で求め、用途廃止された旧作業所を撤去し、学校敷地の拡充に務めてきました。しかし、狭隘化はもはや限界だとの声が保護者などから多くあがり、その思いを受け止め、私が質疑に立ちました。まず、市教委には、3校目の支援学校の整備を申し入れ、その整備までの経過措置として、通学バスの抜本的な増車を求めていました。現在両支援学校では、少ない通学バスの台数をやりくりしていますが、長時間バスに揺られ登校する負担感は重く、また安全対策とはいえ、拘束帯をされている子どもの辛さは想像を越えています。私は、両支援学校に出向き、最も走行時間の長い車両に乗り込み、一番しんどい状態の子どもと同じ拘束帯を体験し、その様子を紹介しました。こうした動きを受け、来年度からバスの増車は既に決まりましたが、小手先で終わらせることなく、早期に3校目の整備に着手するよう、先頭に立って働きかけを行います。

## 人生100年時代の礎である幼児教育の質の向上を

人口減少時代とコロナ禍も重なり、2021年度の全国での出生数は過去最低の約81万人となりました。人口は減少傾向にあるものの、堺市はこれまで認定こども園（保育所）で多くの待機児童を出してきましたことから、待機児童対策に力を入れ、園児の受け入れ定員の拡充を最優先で進めてきました。しかし、堺市は既に2年連続で待機児童ゼロを達成したことから、幼児教育には一定の目途がついたとの風潮が市役所内からも感じられます。ジェームズ・ヘックマン教授の研究に触れるまでもなく、幼児教育の重要性は誰もが認めるところです。量（受け入れ枠）の確保に目途が立った今こそ、予算をシフトさせ、幼児教育の質の向上に振り向けるよう働きかけています。コロナ禍の中、幼児の傍で奮闘して下さる先生方とも連携し、育ちの応援団長として先頭に立って働きかけます。